



1 コロナ禍における「小中一貫教育の取組」（その1）

本年度に入り、コロナ禍において、穂波東校：小学部と中学部が最も重点的に力を合わせて取り組んできたことは、「新しい生活様式を取り入れた学校生活」づくりです。先行事例が無い中、小中経営部が中心となり様々な学校生活の場面ごとに対応マニュアルをつくり、小中の先生方の協力により、日々マニュアルに基づいた取組が実施されています。

穂波東校：新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた各種対応マニュアル

家庭訪問編、校内消毒編、通常の学校生活編、登校時の検温編、避難所開設編、感染者判明時編 etc.

一方、昨年度まで取り組んできた様々な小中一貫教育の取組はその実施を見送っています。

穂波東校：昨年度上半期までに実施した小中一貫教育の取組

「平和学習の折鶴づくり」（中学部の生徒が先生役となり、小学部の低学年に折鶴づくりを教える）

「小中合同表彰式」（中学部の部活生の優勝式や賞状の披露を小中合同の場で行う）

「児童と美術部員によるオブジェづくり」（美術部員の手ほどきを受けながら児童がオブジェをつくる）

「チャレンジ授業」（6年生児童が中学部エリアに出向いて中学部の先生方から授業を受ける）

「小中合同研究会」（小中の先生方が部会に分かれ、グループ討議等を通して研究を深める） etc.

このように昨年度を振り返って見ると、小中一貫教育の取組も「人と人が触れ合い、交流し合う活動」を土台にしていたことが改めて分かりました。

2 コロナ禍における「小中一貫教育の取組」（その2）

コロナ禍では「人と人が触れ合い、交流し合う活動」を実施することが困難です。かと言って、穂波東校の小中一貫教育の取組を停滞させるわけにはいきません。

本年度、小中の研究部が中心となり、次のようなコンセプトにより児童生徒の学力向上に向けた小中合同の研修に取り組みます。

穂波東校：研究部「本年度の研究の進め方（一部抜粋）」

本年度は、コロナ禍で「新しい生活様式」が学校生活でも実践されています。

一方、このような状況下、「知識構成型ジグソー法」での協調学習をこれまで通りに実践することは困難な状況でもあります。

そこで、児童生徒の学力向上に向け、昨年度本校独自に研究してきた「穂波東校授業スタンダード」に軸を置き、主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。

10月1日（火）、福岡教育大学教授 鈴木邦治先生を講師としてお招きし、「コロナ禍における主体的・対話的で深い学びの在り方」「穂波東校授業スタンダードの価値づけ」等について研修を行います。

この研修会を通して、「コロナ禍における主体的・対話的で深い学びの実現」に向け突破口となるヒントを掴むことができると願っています。